

防災品導入事例

## こんなところに防災品 飛沫防止シートの導入事例

昨年から続くコロナウイルス感染症の感染防止のため、今では様々な場所に設置されている「飛沫防止シート」。このシートが火災の着火物となっても延焼拡大とならないようにと、より安全性の高い「防災性能」を有するシートを採用されているとの情報を得て3事業所を取材させていただきました。

### 1 事務所での設置例



株式会社東広

株式会社東広（東京都葛飾区奥戸）の事務所でシートを設置しているとのことので会社を訪問させていただき中野肇社長にお話しを伺いました。



取材に応じる中野肇社長

株式会社東広は舞台幕やイベント関連のシート、幕類の制作などを行っている会社です。自社ビル内の事務所では感染防止対策の一つとして社員と社員の間を飛沫防止シートで仕切っていました。事務所に飛沫防止シートを導入されたのは、昨年1度目の緊急事態宣言の時は自宅待機が多く、シフト制にしたりしたが宣言解除後全員出社にした際、社員から感染リスクの心配の声が上がったため、換気やアルコール消毒以外にも隣の席同士飛沫防止の為にシートの導入を決めたとのことでした。日頃からシートの作製、販売をしているが安全・安心のために「防災品」を推奨しているのでたとえ社内であっても安全のため着火、延焼しにくい防災シートを使用するのは当たり前の選択でした。と中野社長。





事務所内



飛沫防止シートには防炎ラベルシート

また、会社では当然防炎以外のシートも取り扱っているが、非防炎品は主に屋外イベントなど使用期間が短いので終わるとすぐ撤去するような場合が多い。屋内の舞台などで使用する時は防炎品を勧めているそうです。基本的な感染防止対策もとつつ、シートも設置することで社員同士の感染を予防していました。

## 2 飲食店の導入事例

シートには防災ラベル



常務取締役 池田 平 氏



店内の様子

ニューコンセプトリゾート(有)が運営するゴールデン酒場（信州ゴールデン新館・長野県松本市）に感染防止用に飛沫防止シートが導入されているので取材に伺いました。松本駅からほど近い場所にある店舗では昨年コロナウイルスの感染が全国に広まりはじめ、まだまだ県内では少ない感染者数だった4月には店内で他のテーブルとの間を仕切る飛沫防止シートを設置したそうです。お話を伺ったニューコンセプトリゾート(有)池田 平常務は、お客様が安心して来ていただけるようにチェーン店も含め導入した。飲食店を運営していることから規制のかかるものは防災でなくてはならないと知っていたし、安全のため初めから“防災”シートを探したが、まずホームセンターなどでは在庫が無く、取引のあった山添シート内装さんにお願ひし設置してもらったとのことでした。昨年4月は一度目の緊急事態宣言が発出されている最中ではありましたが、全国的にも飛沫防止シートが今ほど認知されてはおらず市内でもテーブルの間仕切りにシートを設置したのは早い方だそうです。もちろん店内では感染防止対策のため、飛沫防止シート以外にも従業員の検温、手指消毒、換気、アルコール除菌での清掃など今では基本とされる感染防止策もきちんとしておられました。池田常務にお客様からの評判などお聞きしたところ、この店ではシートをかなり長めに設置しているせいか「屋台風」に見える、仕切られていると安心、など概ね好評とのこと。

シートには防災ラベル



店内座敷席



山添シート内装・山添社長      池田常務

従業員の方からも冬のメニューではお鍋があり、カセットコンロも使用するので安心。衛生面でもシートは拭けるのでいいそうです。また、頑丈に施工しているので一年経過してもシートにゆがみもなく切れたりチェーンが外れたりしていないこともよかったそうです。お店ではアクリル板も使用していますが落として欠けたり、ひびが入ったりすることからシートの方が扱いやすい面もあるようです。感染対策に十分注意を払いながらその場に応じてお客様、従業員の安全・安心の為に様々な対策を講じてお客様をお迎えしています。

### 3 病院内の事例



長野県立こども病院

長野県立こども病院（長野県安曇野市）でも飛沫防止シートが設置されていると情報をいただき、取材させていただきました。こちらの病院は全国で9番目の県立こども病院として平成5年5月に診療を開始した病院です。



窓口に設置された飛沫防止シート

総務課総務係の小宮山様にお話を伺いました。飛沫防止シートの設置経緯はコロナの感染防止には一般の方、来院される方と職員が安全に接することができるように、さらに火災防止のため病院取引業者の(有)折井文具店さんから防災シートを勧められたことで飛沫防止シートに防災品を採用した。設置箇所としては主に発熱外来用、受付・会計などに使用している。シートの採用には防災品もさることながら来院者の顔色などもわかるようにサンプルの中からより透明度のたかいものを選んだ、とのことでした。また、シートの下げ丈にも病院ならではの気配りもあり、多少大きい物でもやりとりし易いようにカウンターから何cm空けるなど検討されたそうです。



飛沫防止シートには防災ラベル



病院キャラクター “ちるくま”

飛沫防止シートのみならず、人の出入りが多い病院という特性から、検温、手指消毒、入出時間等の記入の他、通常では入館バッジ、あるいはプレートを使用するのを「シール」式にし、来院時胸元に貼り帰りに捨てる、こうしたことで大勢の人が触り何度も使用することを防ぎ、プレートやバッジを毎回拭いたりする手間も省ける、など来院時の感染防止策にも気を配られていました。他にも色々な場面を想定した対策をされていました。

3事業所を取材させていただきました、どちらも基本的な検温、手指消毒、換気、マスク着用の感染防止策はとられていましたがそれにプラスして必要な所に「飛沫防止シート」を活用されていました。今では一般的になった飛沫防止シートは必ずしも防災品との規制はありませんがいつ収束するかわからない新型コロナウイルス。感染防止のためにも安全・安心のためにも着火しにくく、燃え広がらない防災品の飛沫防止シートの普及に努めてまいります。

\*取材にご協力いただきました、株式会社東広・中野社長、ニューコンセプトリゾート有限公司・池田常務、長野県立こども病院・総務課 小宮山様、株式会社山添シート内装・山添様、有限会社折井文具店・折井様 大変お世話になりました。誠に有難うございました。